

平成 2 7 年度事業報告書

社会福祉法人わかば福祉会

わかば園作業所

わかばグループホーム

わかば園第二作業所

基本方針について

1. 障害者の働く施設として、一人ひとりがその能力を十分発揮できる環境を整備する。
2. 介護や日常生活支援を要する利用者に対しては、野外活動・音楽・レクレーション等の活動を通して人として感情豊かな生活が送れるよう支援する。
3. 通所の福祉施設として、在宅生活を送る上で利用者が抱える福祉課題の解決に向けての取り組みも積極的に行う。
4. 地域の伝統文化継承に貢献する活動も今まで以上に積極的に取り組む。
5. 一般就労可能な方の就職支援を行う。

評議員会・理事会

会 議	日 時	内 容
第3回理事会 第2回評議員会	平成27年5月25日	平成26年度事業報告 平成26年度決算報告 監査報告
第4回理事会 第3回評議員会	平成28年3月23日	平成27年度補正予算 平成28年度事業計画 平成28年度予算 就業規則の変更

施設の概況

1) わかば園作業所について

1 利用人数（平成28年3月31日現在）35名（定員38名）

〈生活介護〉 16名

障害程度区分6 4名

障害程度区分5 2名

障害程度区分4 5名

障害程度区分3 2名

障害程度区分2 2名

障害程度区分1 1名

〈就労継続支援B型〉 19名

障害程度区分2 7名

障害程度区分1 6名

無 6名

2 平均利用率

(生活介護) 11.8人(定員16名)
(就労継続支援B型) 16.5人(定員22名)

3 職員(平成28年3月31日現在) 21名

〈生活介護〉

生活支援員 8名(常勤換算7.1人)
看護職 1名
サービス管理責任者 1名(兼務)
管理者 1名(兼務)

〈就労継続支援B型〉

作業指導員 3名(常勤換算2.5人)
生活支援員 1名
目標工賃達成指導員 1名
サービス管理責任者 1名(兼務)
管理者 1名(兼務)

〈共通職員〉

調理員 2名
事務員 2名

(有資格者 介護福祉士5名、社会福祉士1名 保育士2名)

4 開所日 270日

5 平均工賃(1ヶ月当たり)

平成22年 17,179円
平成23年 18,734円
平成24年 22,927円
平成25年 23,244円
平成26年 26,853円
平成27年 28,050円

6 年間売上額

平成22年 16,932,085円
平成23年 17,973,721円
平成24年 20,846,316円
平成25年 23,371,467円
平成26年 23,928,588円
平成27年 17,830,706円

7 防災訓練(避難・通報・消火等) 年2回実施(7月、3月)

避難場所を「イオン」として避難訓練しました。

職員からの27年度の感想

生活介護・のびのび班（中野）

一年間、健康管理として朝の検温を実施しました。37.0℃以上ある方に関しては、家庭に連絡し迎えに来て頂いた事もありましたが、帰宅時に家族が検温したところ37.0℃以下という指摘があった為、今後は37.0℃以上時は、一度家庭に連絡し本人の様子を見ながら活動を行っていく事を職員間で話し合い統一しました。

活動では、室内での音楽やリズム体操、行進、ボーリング等を行いました。園外活動では散歩やドライブに出掛けました。しかし、個々の障害や特性、体調や体力により皆で同じ活動をする事の難しさを感じました。

生活介護・のびのび班（的場）

音楽活動を毎日続けていることで、タンバリン等の打楽器をリズムに合わせて打つことが上手になりました。また、音楽活動を通じて、自らの演奏に皆の注目が集まる場面があり、その緊張感が生活に張りを与えていると感じました。様々な楽器に触れ、いろいろな音を楽しみました。

毎週水曜日の午前中は、看護職によるバイタルチェック、爪切り、健康への助言などを行いました。

園の食堂では昼食をほとんど食べていない利用者がありますが、その方は縁日等で販売している「焼きそば」は何杯もお代りして食べています。それにヒントを得て、園でも「焼きそば」等の献立の際にはお皿ではなくパックに焼きそばを詰めて貰いました。すると食堂で食べるようになりました。他の献立でも試みようと思います。

音楽活動等の集団活動と個々のニーズに対応した個別活動を取り入れることは、今後も継続したいと思います。

生活介護・農耕班（岸野）

悪天候のため、当初予定していた収穫量には届きませんでした。（農業指導員の山田さんの話しによると年々野菜が作りにくい気候になってきているとの事でした。）インゲンやジャガイモが被害を受けました。

地元スーパーに出荷しているのですが、収穫期が他の農家の方と重なるため、どうしても値下げ競争になってしまい、昨年以上に売上高を伸ばすことは出来ませんでした。

就労継続支援B型・掃除班（上地）

県庁舎の掃除

27年度よりトイレ掃除に加え県庁舎内と外回りの掃除を職員2名、利用者男女6名～7名体制で取り組みました。夏頃から職員1名になり、掃除範囲が広い為目が行

き届かない事もありましたが、それに対応してくれる利用者に助けられました。一人で作業する利用者には、朝礼時に掃除箇所の確認をすることで忘れず掃除出来るようになりました。外回りの落ち葉集めは、竹箒は重くて扱いにくいのでプラチック製の箒に替えて対応しました。雨の日の廊下や階段に水滴が多い時は、掃除機でなく雑巾モップを使うなど季節や天候に応じた対応を指導してきました。

新たな仕事として、障害者施設「杉の郷」より依頼を受け、平成28年2月の中旬から利用者3人と1名の職員で施設内の全廊下・4箇所のトイレ・食堂等の清掃作業に取り組み始めました。現状では、固定されたメンバーで業務に従事していますが、今後は、班の皆が行けるようにメンバー交代をしながら覚えてもらう予定です。掃除範囲は現在のところ、施設内だけですが、季節に応じ外回りの掃除も出来るようにと思っています。

飛込みで入ってくるアパート・借家の掃除は、(午前中庁舎に行っているの)午後からの作業になります。部屋が多い家や汚れが多い所は、一日で終われないことがあり2日がかかりになることもありました。年度末の引っ越しシーズンは、依頼が増え日程調整に苦労しました。今年度は、余裕を持って取り組みたいと思います。

就労継続支援B型・農耕班（岡本）

2015年度 就労支援B型外部事業班作業計画は、

- ① 利用者の工賃アップを目指す。【個人の技術・能力アップ】
- ② 日々の活動を通して、社会に役立っていることを自覚し、明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。

★ミカン畑【御浜町山地地区】でのミカン作りに取り組みました。

収穫の時期に収穫するミカンのサイズの見極めをすることに力を入れました。

★すぎもと農園からの委託作業に取り組みます。

草刈り作業の時に、状況に合わせた草刈りができるようにする。

★田んぼづくりをします。【2000kgを目標】

耕耘機が操作できるようにする。

★除草作業やアパート清掃作業をする。

窓ふきとサッシの溝掃除ができる。

以上の事を柱にしながら、一年間活動してきました。

- ① 利用者の工賃アップを目指す。【個人の技術・能力アップ】

この目標達成のために、今年度も昨年同様に様々な作業に取り組んできました。草刈り作業では、その場所の状況に合わせた草刈りができるように、利用者と作業する場所の状況の確認をして、チップソーか紐で作業するのかをお互いに相談してから決めて取り組みました。その結果、自分で判断できるように

なってきました。【草刈り機の技術は、少しずつだがアップしてきました。しかし、ゆとりが無くなると雑な作業になることもあり、見守りは必要でした。】

田んぼでの作業で、今年度は、耕耘機を操作できるように取り組みましたが、なかなか思うように操作はできませんでした。真っすぐに進むこと作はできるが、ターンするときは職員からの助言が必要な状態です。耕運機のハンドルにクラッチレバーが装着しているので、そのレバーを自転車のブレーキと間違えて操作してしまうことがありました。【耕耘機に慣れてくれば解消できてくると思います。】

② 日々の活動を通し、社会に役立っていることを自覚させながら、明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。

どの作業場所に行っても挨拶などはできるようになってきました。昨年度より利用者の人数が減ったので、利用者同士のコミュニケーションは、良く明るく・楽しく日々作業に取り組みました。

★ミカン畑【御浜町山地地区】でのミカン作りに取り組みます。

ミカン畑での作業については、初めてのことが多くて、最初は戸惑っていましたが、この作業も慣れてくると【摘果・剪定・消毒など以外】徐々にできるようになってきました。

収穫時に採ったミカンのサイズの見極め作業は、サイズにあわせた「針金の輪っか」を使いました。

★すぎもと農園からの委託作業に取り組みます。

10月以降は、業務委託作業に一度も取り組むことができませんでした。（理由は、自分たちの畑や田んぼなどでの作業が忙しくなり、すぎもと農園には行けなくなったからです。）

★田んぼづくりをします。【2000kgを目標】

耕耘機が操作は部分的にしかできるようにはなりませんでしたが。収穫量は1600kg。

★除草作業やアパート清掃作業をする。

この作業については、7月中旬頃から別の班に移りました。

就労継続支援B型・ひじき班（久保）

2115年度ひじき班事業計画は

- ① 利用者さんの出来る役割を増やす。
- ② ひじき4000^キを加工する。
- ③ スーパーなどに商談を持ち掛ける。

(利用者さんの出来る役割を増やす)

利用者さん10名からのスタートでしたが、家庭の事情で午前10時にしか出勤できない人(本来午前8時40分出勤)、体調悪く長期休む人、午後のみ出勤の人など、実際に定刻から作業に携われるのは全体の半分ぐらいでした。それぞれの人の時間に合わせて、作業を分担して行いました。しかし、結果としては一人一人が自分の仕事を自覚でき、責任ある作業をできたと思います。

(ひじき4000キロを加工する)

加工の工程は、ボイルする前日に利用者がシンクに源藻25キロを用意します。翌朝、職員がシンクに湯を入れながらひじきを洗浄し、ごみを取り除きます。洗浄したひじきを回転釜で炊きます。炊き上がったひじきをトレイに移し、日干しにします。その際、ひじきの中に混じっているホンダワラやコケ付ひじき、皮むけひじきを取り除きます。半日、日干しにした後、乾燥機でカラカラに乾かします。カラカラに乾燥させたひじきを芽ひじきと長ひじきに分け、袋詰めします。その際にもゴミを取り除きます。

長ひじき製造の方は毎日炊く事で注文に追いつきましたが、芽ひじきはひじきの中に混じっているゴミ取りが追いつかない状況でしたが、他の施設が芽ひじきのゴミ取りを請負ってくれるようになり、何とか注文に応えることができました。

5月の新もの入荷まで数百キロ残っていますが、今年目標通り、源藻約4000キロが炊けて、加工できる予定です。

(スーパーなどに商談を持ちかける)

新規で数件商談がまとまりました。商談会には、商談成立しても加工が追いつかない状況でしたので、行けませんでした。

私たちが製造している太地産ひじきが和歌山県の推進するプレミアム和歌山(和歌山優良県産品推進制度)として認定されたこと、和歌山紀州館(東京)での販売やオンリーワン(カタログ)への搭載されたこと、大阪のNPO法人が主催している頒布会(カタログ)への搭載を通して販売させて頂きました。プレミアム和歌山の申請に当たっては、パッケージの修正等をはじめ、沢山の書類作成を要求され書類作成が大変でしたが、認定してもらえたことにより沢山の皆さまにわかば園の「ひじき」を知って頂け、良かったと思います。

就労継続支援B型・ひじき班(内門)

昨年1月より旧木工室に移動し、作業場も広くなりました。また、昨年12月にはプレハブ1階に乾燥機を移動させ、その部屋でも作業できるようになり作業環境は良くなりました。

他の班から移動してこられた方もおられたので、どの作業が合うのか見極めるのに少し時間がかかりました。

納期に間に合わせるには、利用者さんの得意な作業ばかりしてもらっては間に合わなくなってしまうので、苦手だったり、得意ではなかったりする作業でもやる気を出してもらうにはどのように支援すれば作業に取り組めるかが苦労しました。当初に比べ、できる事が増えた方が多かったのがとても嬉しく感じました。また、ひじきを通して他施設やお店などの方とお話しする機会があったことは良い経験となりました。

【担当】

4月から利用者さんの担当をもたせていただきました。

他機関との会議や連携では、知識不足なところが多かったですが制度などについて教えていただきながら少しずつ知る事ができました。

まだまだ知識や経験が不足しているので今後も様々なことを吸収して良い支援ができるよう取り組みたいと思います。

全体として（田邊）

就労継続支援B型について

一般企業では就労できなかった、あるいは就労に失敗した方がわかば園作業所の利用対象者です。私たちの使命は、その方達が働くことができるように環境を整備することと、その環境の中で訓練をすることです。一般企業のような給与は支払っていませんが、それぞれの利用者の能力・体力に配慮した「仕事」を用意してきました。

売上額が昨年より減っているのは、昨年1月に工芸班が第二作業所に移転したからです。就労班全体としては、26年度より売上高は約20%伸び17,830,706円となり、平均工賃も1,197円上がり28,050円となりました。多くの利用者の方の年金額が月約65,000円なので、合計月額収入が92,050円となり、何とか一人暮らしできるぎりぎりのラインです。各班の課題として、

ひじき班	ゴミ取り除き作業の効率が悪いので、生産性が上がらない
清掃班	主となる県庁舎清掃が入札のため、落札できないこともある
農耕班	耕作面積が小さいこと

生活介護について

のびのび班では、健康・音楽・屋外活動を中心に取り組んできました。特に音楽活動では、全員が音作りに参加できるように支援してきました。音楽療法士の方からの指導も定期的に受けており、その評価も年々高くなってきてきました。また、個別活動も重視し、一人ひとりのニーズに合わせた取り組みを行いました。

生活・農耕班では、アルミ缶回収と野菜栽培に取り組んできました。アルミの値段が下がったことと回収量の減少により昨年度より大幅に収入が落ち込んでしまいました。落ち込みへの対策として、回収車両に目立つ看板を取り付けました。この看板で、当園がアルミ缶回収を利用者の仕事として行っていることをより多くの方に知ってもらえたと思います。

農耕の売上は昨年とほぼ同額でした。天候の影響もあり、予定していた収穫量には届きませんでした。しかし、作柄は大変良好なため、売れ残ることはありませんでした。今まで、無農薬栽培をしていることを宣伝したことがありませんでしたが、今後はそのことを強調した販売の仕方を考える必要があると思います。

職員研修

内 容	月 日	参 加 者
音楽療法	平成27年 5月31日	2名
全国生産活動・福祉物産展	平成27年10月21日	2名
ノロウイルス感染予防	平成27年11月18日	1名
就労センター研修会	平成28年 2月19日	2名
サービス管理責任者現認研修	平成28年 2月26日	2名
新東職員研修会（虐待研修）	平成28年 3月12日	5名
集団指導	平成28年 3月17日	2名
虐待研修（法人内で伝達研修）	平成28年 3月23日	20名
ケース会議		

2) わかばグループホーム

1 行事 入居者11名のうち10名が、わかば園作業所と第二作業所の利用者です。1名が一般就労しています。ホームとして定期的に保護者を交えての誕生会（食事会）を開催しています。また、忘年会、花見を開催して生活にも季節感を取り入れるよう努めています。

2 入居者数 定員11名

3 費用（自己負担額）

浮島ホーム	家賃	20,000円～30,000円
	生活費	31,000円
神倉ホーム	家賃	10,000円
	生活費	28,000円

4 職員 世話人3名、支援員5名、サービス管理責任者1名（兼務）
管理者1名（兼務）

- 5 連携 入居者8人が地域福祉権利擁護事業と契約しています。
その担当者と利用者の金銭管理等について意見交換し、適切な地域生活ができるよう連携した支援に努めています。また、施設でグループホーム連絡会を不定期ながらも開きました。
- 6 開所日 年中休み無 366日食事も提供

グループホーム世話人の感想（久保 千早）

27年の1月から重度の方が、病院のリハビリに通い始めました。5月には、リハビリ効果をより確かなものとするための手術を受け、約40日間の入院となりました。その間の支援が大変でしたが、色々と勉強になりました。現在は、週2回リハビリに通っています。

サテライトの方への支援は、1日2回～3回見守り・声掛けを行っています。夕食と入浴については「うきしまホーム」を利用しています。その方は一般就労されている方ですが、サテライトに移ってから今まで同様に仕事を休む事もなく元気に出勤しています。一人暮らしとなったため、人間関係のストレスもないようです。

この一年間、ホームでは色々と問題もあり大変でしたが、入居者の皆さんが作業所や職場に元気よく通えた事が良かったと思います。それも地域の方や関係機関との連携・協力があったことだと感謝しています。

3) わかば園第二作業所について

1 利用人数（平成28年3月31日現在） 17名

〈就労継続支援B型〉

障害程度区分3	2名
障害程度区分2	6名
障害程度区分1	3名
無	6名

2 職員（平成28年3月31日現在） 3名

〈就労継続支援B型〉

作業指導員	1名
生活支援員	1名
サービス管理責任者	1名
管理者	1名（兼務）

（有資格者 介護福祉士3名）

3 平均利用率 12.6人（定員20名）

- 4 開所日 270日
- 5 平均工賃（1ヶ月当たり）
- | | |
|-------|---------|
| 平成26年 | 22,377円 |
| 平成27年 | 26,946円 |
- 6 年間売上額
- | | |
|-------|-------------|
| 平成26年 | 4,560,238円 |
| 平成27年 | 13,884,225円 |
- 7 防災訓練（避難・通報・消火等） 年2回実施（8月・3月）
宝珠寺を經由して「みくまの支援学校」へ避難訓練

職員からの27年度の感想

就労継続支援B型・工芸（中西）

1、前年度の取り組み

- ・職員3人と新しい利用者を含めた体制での、前年度の生産数、売り上げを維持、増進の体制作り
- ・安全に作業を行う為の動線の確保
- ・材料、在庫の置き場作り
- ・第二作業所での取り組みについての話し合い、調整
- ・前年度の取り組みを効率良く行えるよう改善する
- ・新規の販売先を増やす為の営業
- ・分業では見えない作業を共有

2、目標の達成

- ・木工班の目標である塔婆の売り上げ本数は伸ばす事ができませんでした。また職員の体制も当初の予定では定期的に3人の職員が木工作業の関わり、どの職員でも同じように作業を行える体制を作る予定でしたが、上半期での卒塔婆の在庫作りが遅れ、お燈祭り準備を本格的に行う下半期からは手が回らなくなり、各職員が各作業に掛かりきりになりました。縫製班の布巾、お燈祭り用の荒縄、白装束が前年度より売り上げ、第二作業所全体での売り上げは上げる事ができました。
- ・新しい作業場での問題として作業場が広くなった事から、一番近いコンセントの位置が集中してしまい、作業中にブレーカーが落ちたり、壁からの延長コードが邪魔になる事や、今まで別棟であった在庫置場が作業場にできた事で、作業で出る粉塵を被ってしまう事があった為、作業の位置や棚の位置を調整したり、在庫置き場にカーテンを付けたり対策しました。
- ・営業については上半期しか行えませんでした。新規の販売先については塔婆、護

摩木とも数件ですが増えています。今年はお燈祭り用品をええもん市場(ネット販売)で販売し、特に白装束は前年度より大きく販売する事ができました。

3. 反省

前年度の時間が掛かった作業の前倒し、彙集めにかかる時間、労力の軽減など反省点を生かし作業を行いました。一つ一つの作業時間は減らす事ができ、反省点の改善は予定通り行う事ができましたが、上半期で下半期分の在庫を作りきれなかった事や雑務等が予想以上にかかった事、そしてお燈祭り用品が予想以上に売れた事などから、11月12月1月は作業に追われる形になってしまいました。次年度は今年度の反省点をまた生かし改善して行きます。

就労継続支援B型・工芸（鈴木）

縫製では昨年度のお燈祭りが土曜日であったため、白装束の在庫をほとんど残さないほどを売ることができました。

蚊帳布巾“わかばふきん”の方は皆さんにアイデアをいただいてパッケージを一新しました。塔婆のご注文をいただいたお寺様にチラシを挟んで送るなどして、少しずつお得意様を増やしていているところです。葬儀用、お盆用のご注文に慌てるが多かったので、包みを統一して、在庫を余裕持って作っておけるようにしました。

28年度は、わかばふきんの他、奈良のふきん屋さんの下請けのお話がきているので、技術アップを常に意識して作業をしていきたいと思っています。

ふきん、コカリナ巾着、装束のパーツごとに、ミシン使いの練習をして、商品の品質を安定させていきます。

お灯祭りの装束関係は在庫が少なく、来年までに各サイズを仕上げるには手際よく作業していかないとはいけません。その他、縄に関しては、前年度から「千羽こき」を使い始めたため準備は画期的に早くなりましたが、相変わらず縄をなうことのできる利用者が不足しているため、目標の数（昨年は230本でしたが、今年は300本を目標）を作ることが難しい状態に毎年頭を抱えています。

利用者への細やかな対応に努め、協力し合って第二作業所を盛り上げていきたいと思ひます。

就労継続支援B型・工芸（瀬田）

第二作業所が出来て1年目という事もあり、卒塔婆製造作業をしながら、材料の置き場や機械の配置等をおこなってきた一年でした。また、それぞれの職員一人一人が各々の仕事をこなす事が精一杯の状況で、お灯祭り関連のグッズを例年のように予め作り置きすることができませんでした。故に、1月と2月は卒塔婆作りと松明作りが同時となり、勤務時間内では間に合わず、例年以上に残業しての松明作りとなってしまいました。

営業に関しても時間が取れず、一年が終わってしまいました。また、利用者の一人一人に対する技術向上への支援も満足いく結果が出ず、今後の課題となってしまい

ました。

28年度は職員が一人増える事もあり、利用者一人一人のレベルアップも行い、営業の強化を図り事業を拡大していきます。